

鑽仰(サンギョウ) 聖人・偉人の学徳を仰ぎ

尊ぶこと。誤って“讚仰”と書くことが多い。

散華(サンゲ) 仏を供養して花をまき散ら

すこと。花と散るの意で、戦死を美化して用いられた。

懺悔(ザンゲ) 自分の行為の悪かったこと

に気づいてそれを悔い、神仏に告白すること。

参詣(サンケイ) 神仏におまいりすること。

残滓(ザンシ) 残りかす。“ザンサイ”と慣用

読みされる。

参内(サンダイ) 皇居に参上すること。

栈道(サンドウ) 山の崖の中腹に、^{がけ}棚^{たな}のよう

に設けられた橋。また、絶壁から絶壁へかけ渡した橋の道。

参籠(サンロウ) 神社・仏寺に、ある期間こ

もって祈願すること。

思惟(シイ) 考えること。思考。

詩歌(シイカ) 漢詩と和歌。詩や歌。

紫衣(シエ) 紫色の僧衣。

潮騒(しおさい) 潮が満ちて来るときの響き。

弛緩(シカン) ゆるむこと。“チカン”は慣用読み。

直筆(ジキヒツ) 代筆でなく、自分自身で書くこと。また、そうして書かれたもの。

嗜好(シコウ) 嗜はたしなむ(飲食物を口に

すること。“好み”という意味。栄養というより好きで口にする物を“嗜好品”という。酒・タバコ・コーヒー・茶などのたぐい。

示唆(シサ) それとなく教えること。また、そそのかす意にも用いる(唆はそそのかす)。“ジサ”とも読む。

使噤(シソウ) 噤はそそのかす。さしずしてそそのかすこと。けしかける。

四諦(シタイ) 四つの真理という意味の仏教のことば。迷いと悟りとの因果を四つに分けて説明したもの。

悉皆(シツカイ) 残らず。皆。悉はことごとく。

例 悉皆調査